

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合				
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校生活全般について満足している生徒の割合は90%以上である。	学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	A	A	アンケートでは93%が満足している。今後も「学習」「部活動」「行事」の充実を図り、生き生きとした学校生活を送れるようにしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベータ講演会やOxbridge研修等、大変充実した取組である。情報発信を工夫することで、これらの取組のよさを生徒や保護者等にもっと理解してもらえ。 ・学びを言語化することを奨励し、学びの過程を教育の中心としている点が非常に良い。 ・Oxbridge研修やその他の校外研修について、参加者（一部の生徒）だけの成果に終わらせず、なるべく多くの生徒が成果を共有できるような工夫をしてもらいたい。家庭の環境等で参加できない生徒を取り残さないことも必要と思われる。 ・勉強、部活動、学校行事と濃密で充実した高校生活を送れたと思う。部活動だけではなく、定期戦では全校が一体となって挑戦する校風を確立している。 		
		② 「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)、「科学探究Ⅱ」(3年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身に付いたと感じる生徒が80%以上である。	課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。	A	A	A	これまでの指導経験を生かしつつ、各学年において、外部との連携も増やしながらか、より適切な指導が行われており、探究力の向上につながっている。			
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	年に2回(4月、10月)、外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲と質問力の向上を図る。	A	B	B	第1回の講演会は1年生の探究活動への心構えを形成する上で重要なものとなっている。第2回の講演会ではワークシートを工夫し、質問力を向上させる活動を行うことができた。			
		④ Oxbridge研修やその報告会およびその他のグローバル教育に関する活動を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	グローバル教育活動に参加した生徒たちの体験を共有させるよう努める。Oxbridge研修を再開させ、国際交流や国内・校内等での研修参加を促すよう努める。	A	B	B	Oxbridge研修を再開することになり、国内・校内等での研修も進めており、積極的な参加を促している。サイエンスダイアログや明石塾、YouthLeaderProgramなどへの参加もすすめ、生徒達のグローバル教育活動への意識を高めさせるようにしている。			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 工夫された授業が展開されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	ICTの活用やAIの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	A	A	アンケートでは高い満足度を示しているが、今後も一人一台端末の活用を図りながら、より充実した授業となるよう改善を組織的に進めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が互いに教え合う機会を設けると、ガイドする生徒にとって内容理解の確認やことばで説明する機会となり、相手に分かるよう配慮しながらことばを選択する機会が、内容理解の整理へとつながり、更なる成長が促されるのではないかと。 ・全員が満足するような講演会を実施するのは難しい。次年度からは平日開催するという案は大変いいと思う。食わず嫌いをさせずに、とにかく聞いてみる、やってみるという多少強引なやり方でも体験させることは必要だ。謙虚さは大事だが、一人でも多くの生徒が自信を持っていい意味で図々しく生きていけるように指導願いたい。 ・英語等によるコミュニケーション能力の向上について、特にNATIVEな英語を聞く機会を増やすと同時にスピーキングの練習を増やして、生徒が英語に自信を持てるようにして欲しい。 ・探求活動の充実が印象的である。生徒が自らテーマを設定し、調査し、解決に向けて取り組む探求学習は大学での学習や社会人の仕事に良い影響力を及ぼすと思う。 		
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	クラス分けの方法や時期を工夫する。小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。	A	A	A	年々理解度の差が広がっている傾向が見受けられ、習熟度別授業を効果的に活用することがさらに必要となっている。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上とともに、協働的な学びを進める。生徒が発表する場面を意識的に増やす。	A	A	A	学年が上がるとともに割合が上昇している。学校全体の方向性として、職員の意識を向上させたい。			
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科ごとに実施している。	学年及び教科で計画的に研究授業、授業研究を実施する。	B	A	B	先生方の努力と工夫で生徒は主体的に授業に取り組んでいるが、研究授業や授業研究などはまだ十分とは言えない。			
		③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もつとした生徒が70%以上である。(1・2年のみ)	「土曜AL」では魅力のある講演会を実施し刺激を与え、積極的に探究活動を進めていく雰囲気を作り出していく。	B	A	B	講演会に参加した生徒の満足度は高いものの、参加率がそれほど高いとは言えない。次年度からは平日講演会を計画し、土曜ALの刷新を図る。			
④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	AL型授業、外部英語検定(GTEC,英検等)受検、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。	B	B	B	AL型授業、外部英語検定(GTEC,英検等)受検、スピーキングテスト等を推進しているが、自分の能力に自信が持ていない生徒もいる。					
⑤ 各教科・科目で「探究的な学び」を取り入れた授業を行い、学習内容がより深く理解できたと感じる生徒が80%以上である。	様々な教科・科目において教科横断学習や探究活動を行う。各教科・科目の授業において探究のサイクルを回し、学習内容に対する興味・関心の高揚を図る。ICE評価も引き続き取り組んでいく。	A	A	A	探究×英語、生物×国語などの新しいクロスカリキュラムの授業を行い、学習内容のつながりを持たせることができた。次年度以降もさらに拡大させていきたい。					
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。	B	B	B	3年生では学習を確保できているものが多い。1・2年生ではある程度の確保に留まっている。予習・復習を含め自主的な学習の重要性を伝えたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の課題として記入されている通り、メンタル不調への対策は必要だと思われる。 ・なかなか心の中の不安や不満を口にすることはできないと思うので、引き続き丁寧に電話などで聞き取りをしてほしいと思う。学校生活の項目については先生方の指導が良い結果として反映されている。 		
		② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	学校に軸足を置いた学習が受験勉強の基本であることを理解させるための仕掛けを工夫する。蛟龍館自習室の利用を勧める。	A	A	A	生徒は蛟龍館での学習を積極的に行っている。3年生対象の冬期集中学習会では参加申し込み人数が増加した。			
	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	A	A	A	教育相談会議を隔週で行い、悩みを抱えている生徒の情報共有を行っている。また、学年会議を毎週行い、学年間の情報共有を行っている。カウンセリングやアンケート調査に挙がるリスト者以外の詳細把握を迅速に行うことが課題である。			
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。	B	A	B		欠席率は1年2.0 2年2.3 3年1.3であり、メンタル不調が理由で欠席する生徒が増えつつあり、対策が必要であると思われる。	
	② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。		学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	A	A	A	各学年と連携し登校指導を行っている成果が、保護者アンケートの高評価につながっている。			
	7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じている生徒が90%以上である。	文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	A	A		生徒が積極的に活動している。次年度も引き続き、上位大会への進出を目指し、日々の部活動に取り組ませたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会での代表生徒の発表を通して、部活動や定期戦等では自主的に活発な活動に取り組んでいることが分かった。引き続き、充実した取組を行ってほしい。 ・学習時間を確保しつつ、部活動に取り組むのは大変だが、アンケート結果からも十分に良い結果がえられている。今後も充実した活動をしてほしい。 ・部活と勉強と時間は大事なので、教育的指導も端的に要点のみでお願いしたい。
			③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。	A	A	A		生徒が主体的に活動しているため、充実している生徒が多い結果となった。	
			④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。	A	A	A		学業との両立を当然のことのように学校生活を送っている。学習時間の確保については厳守していただきたい。	
			⑤ 行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、存在感や達成感を持つことができる。	行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、存在感や達成感を持つことができる。	A	A	A		実行委員会を中心として、生徒が主体的に取り組んだ。次年度は蛟龍祭であり、早期の準備と当日の円滑な運営を心がけさせたい。	
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができていない生徒が80%以上である。	② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。	ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。	B	B	B		「スマホ利用ルール」を理解している生徒は90%であった。風紀委員会を通して自発的・自治的態度を育む機会をつくる。	
① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。			人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。	A	A	A	いじめ防止フォーラムの参加生徒から、いじめ防止についての取組を全校集会で発表し周知することができた。			
9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	② 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。図書委員会の活動をより積極的なものとし、企画展やビブリオバトル等を通じて図書館利用を促す。	B	A	B	1年生でビブリオバトルが実施できた。また2年生では朝読書を行っている。貸出し数は目標を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の利点を理解させるための指導の工夫をするなど、読書習慣を身に付けられるよう指導いただきたい。 ・責任感を持って使用できるように、次年度の課題としてほしい。 ・未知の分野への興味を掻き立て、読解力と考える力を養うためにもっと図書館の利用を増やす工夫をしてほしい。 		

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。	A	A	A	各担当の創意工夫のもと充実したLHRが行われ生徒にとって参考になるものとなっている。	・目標を達成できているので、引き続き充実した取組を行っていただきたい。 ・満足度が高く、先生方がきめ細やかな指導を行っていることがうかがえる。
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	これまでの指導のノウハウを継承しながら、さまざまな場面で資料を有効活用する。	A	A	A	特に「進学の手引き」はLHRでも活用されており生徒も大いに参考にしている。	
		③ 大学・企業・研究所研修、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部・探究部と学年が連携して計画・立案し、実施する。	A	A	A	生徒の満足度は高い。体験活動に対する意識の高い生徒もあり期待に応えていきたい。	
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 早朝補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。	A	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなり概ね安定的に運営できた。多くの生徒が役立つと考えており、保護者も高く評価している。	・目標を達成できているので、引き続き充実した取組を行っていただきたい。	
	② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。	A	A	A	参加した生徒の満足度は高い。会場と日程の変更を行いこれまで以上の行事の充実を図る。		
	③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。	未	A	未	(新しい入試に向けて取り組んでいる)		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高Web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。	学校行事等の記事など、新しい情報をタイムリーに発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。	A	A	A	「今日の前高」など、更新頻度を上げた成果が出ている。今後は部活動ページ(大会結果)などの更新も充実させたい。	・多忙な中で学校通信等を作成することは大変なことで推察する。学校のHP等利用して簡単に掲載するなど、学校の実態に応じた対応を工夫されたいと思う。
		② 学校通信や学年通信などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。	行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発行を行う。	B	A	B	紙媒体の学校通信の発行数については目標に届かなかった。いろいろな手段を利用して、保護者に情報提供を図っていきたい。	
	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	P T A ・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。P T A 新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。	A	A	A	生徒の進路に合わせて、地域から職業人を講師として招いた。	
14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用した通学など、事故に遭いにくい通学を促す。	A	A	A	交通安全の取組に対して評価している生徒が97%である。自転車事故防止に向けて指導を行っていく。	・ウェブページの充実をはかり、細かに更新することで、紙媒体の通信の発行を減らしてもよいと思う。 ・ウェブページへの情報公開など充実されていますが、保護者への告知の強化は図った方がよい。また、成績表およびテスト、模試の結果の通知など改善が必要と思う。	
	② 安心・安全な自転車利用のためには、自転車保険の加入やヘルメット着用が必要であると自覚している生徒が90%以上である。	交通安全教室の形態・指導内容等を前橋高校の現状に合ったものになるように工夫すると共に生徒会役員や風紀委員会を中心に自発的活動を促す。	A	A	A	県教委主催のサイクルサミットに参加した生徒から、交通安全の取組を発表し自主的な交通安全対策を行うことができた。		
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 災害発生時に適切な行動をとることができる自覚している生徒が90%以上である。	毎月安全点検を実施し、施設面の問題の改善に努める。1学年と連携し、洪水災害を想定した避難マニュアルを周知する。年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた避難マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応をできるようにする。	A	A	A	毎月の安全点検をフォームで回答する形式にしたため、集計がしやすくなった。洪水時の避難場所を1年の教室に掲示続けたので、生徒が周知できた。年2回の避難訓練はマニュアル通り実施できた。消火器の使い方を説明したことで、火災発生時の対応が周知できた。		
Ⅵ 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	保健委員会活動(保健だより等)により、感染症、熱中症、A E D の使い方等の健康に関する情報を発信する。感染症対策として、消毒用エタノールボトルや手洗い用石鹸等を用意する。	B	B	B	保健委員の活動は計画通り実施できた。感染症対策はある程度はできた。加湿空気清浄機やエアコン、ヒーターなど生徒任せではメンテナンスが大変なものもあり、正しい使い方、衛生的な使い方を継続できるかについて課題と感じた。	感染防止対策を継続しながら学校生活を送ることはできている。加湿空気清浄機等の衛生的な使い方については、工夫が必要。 ・良好な取り組みもあるが、課題も認識されている。次年度の取り組みに期待。 ・コロナが落ち着いたせいも、多少衛生観念に甘くなった。機器の扱いについては学校側のごまめな管理が必要。継続して行ってほしい。
Ⅶ 教育のデジタル化に努めていますか。	17 ICTを活用した指導を行っていますか	① 授業等でICTを活用した指導を行っている教員が80%以上である。	ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れる。ICTの効果的な活用に関する校内研修を行う。	A	A	A	ICTを活用した様々な指導が各教科で実践されている。指導方法を互いに共有し合い、指導力を伸ばしていきたい。	・ICTの利活用については、中学校と高校で情報共有しながら取り組むことができるとよい。 ・アンケート結果からわかるように満足度がたかい。積極的に活用していることが分かる。
	18 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用することで、分掌業務等の改善を進めている教員が80%以上である。	各種調査や連絡等でgoogle classroomなどの利用を図る。資料や情報の蓄積をデジタルデータ化する。	A	A	A	各種調査や連絡などでの活用が進められ、働き方改革にも貢献している。今後も活用を広げていきたい。	